

共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ

株式会社KDP — 環境経営と持続可能な未来への挑戦



私たちの原点：「世界一愛される会社になる」

株式会社KDPは、売上や利益の追求だけでなく、「世界一愛される企業」を目指します。

それは、顧客、社員、そして地域社会から尊敬され、信頼される企業を意味します。

私たちの歩みは、この理念を実現するための3つの柱によって支えられています。

1. 共に歩む (組織づくり)



1. 共に歩む (組織づくり)

幾多の試練を乗り越え、信頼の基盤を築いてきた私たちの「過去」。

2. 共に創る (環境づくり)



2. 共に創る (環境づくり)

データと実績で証明する、環境・社会への貢献を続ける私たちの「現在」。

3. 明日への夢、共に紡ぐ (企業づくり)



3. 明日への夢、共に紡ぐ (企業づくり)

地域社会と共に、持続可能な共助経済を構想する私たちの「未来」。

Part 1: 過去 — 信頼の基盤

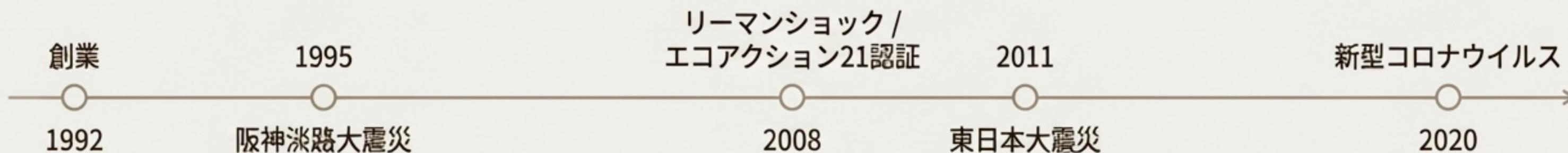
「幾多の試練を乗り越え、企業としての基盤を築いてきた」

「1992年の創業以来、わずか2名の体制から、阪神淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、挑戦を続け、企業としての基盤を築いてきました。

その過程で『環境経営』の重要性に気付き、2008年にはエコアクション21を取得。

持続可能な社会の実現を目指し、環境負荷の低減に努めてまいりました。」

代表取締役 会長 金谷 宏



この経験が、私たちの全ての事業の根底にある
「危機に強く、地域と共に歩む」という姿勢を形作っています。

Part 2: 現在 — 証明された実績

データが証明する、環境経営への 確かなコミットメント

2008年のエコアクション21認証取得以来、私たちは環境負荷低減への取り組みを継続的に改善・実行してきました。その成果は、具体的な数値となって表れています。ここでは、私たちの環境パフォーマンスを客観的なデータでご紹介します。

Key Metrics Overview



二酸化炭素排出量の大幅削減



廃棄物排出量の抑制



水使用量の削減



®環境省

エコアクション21
認証番号0002568

Scope2（電力）におけるCO2排出量、68.88%削減を達成

68.88%削減



本社電力の再生可能エネルギーへの切り替え（コスモでんき「COSMOゼロカボソリューション」導入）や、働き方改革による残業時間の大幅な短縮（基準年比6,292時間削減）など、具体的な施策を通じて目標を大幅に上回る成果を実現しました。

全方位での環境負荷低減：燃料、廃棄物、水資源においても著しい成果

69.77%削減

Scope1 (燃料) CO2排出量

EV車導入やエコドライブの徹底により達成。



95.43%削減

一般廃棄物 排出量

3Rスローガン「買わない！捨てない！持ち込まない！」の徹底。

36.91%削減

循環廃棄物 排出量

コピー用紙のアップサイクルや分別の徹底。
(2020年度比)

27.44%削減

水道水 使用量

節水対策の実施。
(2020年度比)

ESG経営の実践：環境・社会・ガバナンスへの統合的アプローチ

E 環境 (Environment)

- 🍃 エコアクション21 (EA21) を基軸とした環境経営を推進。
- ⚡ 物流センターのLED化や再生可能エネルギー導入によるCO₂排出削減。
- 🍃 ポリウレア樹脂コーティング技術によるインフラ長寿命化と環境保全。

S 社会 (Social)

- 「社員第一主義」を掲げ、多様な人材（シニア・女性・障がい者）の雇用を推進。
- 耐震カプセル開発や防災教育を通じて、地域社会の安全とレジリエンスに貢献。
- 健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）認定。



G ガバナンス (Governance)

- 🔨 コンプライアンスの徹底と経営の透明性を重視。
- 🏢 定期的な社員総会を通じ、社員の意見を経営に反映。
- 🏢 SDGsやESGの視点を取り入れた長期経営戦略を策定。

2025年大阪・関西万博：延べ15万人が体験したKDPの防災技術



大阪ヘルスケアパビリオン (6/10-16)

- 来場者: 約14.5万人
- テーマ: 「未来への安全、今ここに」
- 内容: 耐震カプセル「Sphere Secure」を展示し、防災×健康×未来社会のコンセプトを世界に発信。

大阪のものづくり おもろいミライ展 (9/5-7)

- 来場者: 約8,000人
- 内容: 「Sphere Secure」と、子どもたちと共創した防災キャラクター「まもりん」を通じ、楽しく学べる防災を提案。

Part 3: 未来 — 共助経済の実現へ

自助から共助へ：持続可能な地域社会を実現する 公共民連携モデル

これまでの実績を基盤に、KDPは次のステージへ挑戦します。それは、個社や個人の努力（自助）の限界を超え、地域全体で支え合う「共助」の仕組みを社会に実装すること。

私たちは、防災、福祉、教育、地域経済が連動する、新たな社会モデルを提案します。



3つの仕組みを統合し、複雑化する地域課題を解決する



これら3つを組み合わせることで、少子高齢化、防災、コミュニティ希薄化
といった複合的な課題に、統合的にアプローチします。

「Sphere Secure」：単なるシェルターではない、 地域を豊かにするフェーズフリー防災

「フェーズフリー」とは、平常時と災害時というフェーズ（社会の状態）を取り払い、普段使いのモノやサービスが、もしもの時にも役立つという考え方です。

平時 (In Peacetime)

- 子どもたちの「第3の居場所」
- 高齢者の交流サロン
- 学びやイベントの拠点

Benefit:

施設の稼働率向上と
コミュニティ活性化

災害時 (In a Disaster)

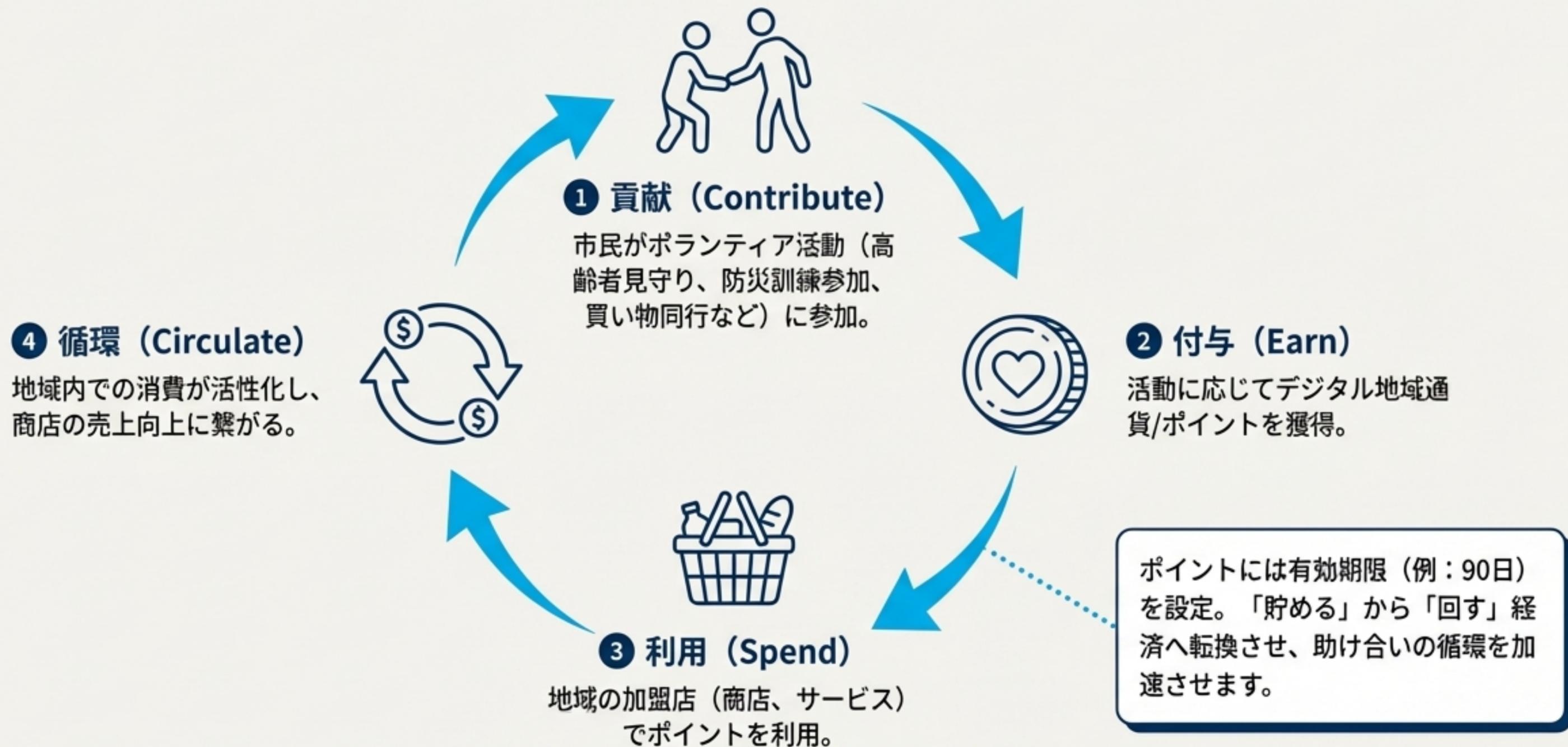
- 安全な避難・一時保護空間
- 要配慮者のための個別スペース

Benefit:

命を守り、避難所運営の負荷を軽減



「ありがとう」が経済を回す：デジタル地域通貨が紡ぐ共助のエコシステム



住民の社会参加を促し、孤立を防ぎながら、地域経済を内側から活性化させます。

点から線、そして面へ：全国の自治体と共に創る共助のネットワーク

パートナー自治体



協働プロジェクト例



廃校活用：多世代交流・防災教育拠点として再生。



高齢者支援：買い物支援と社会参加を促進し、孤立を防止。



教育支援：不登校児童への「第3の居場所」を提供。

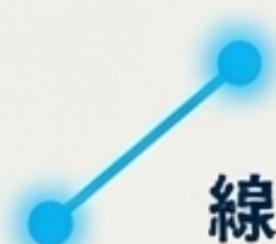


防災体制強化：災害時要配慮者支援体制を構築。

スケール戦略のビジョン

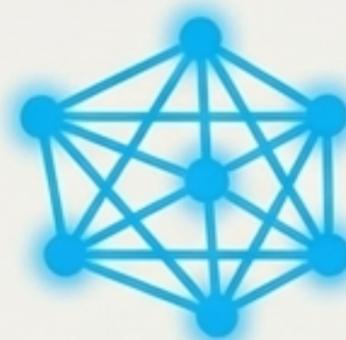
●
点

1施設での個別プロジェクト導入。



線

複数施設が地域通貨・命のカルテで連携。



面
複数自治体が共通の技術基盤を共有し、広域ネットワークを構築。

社会的投資収益率 (SROI) : 1円の投資が生み出す、計測可能な社会的価値

SROIとは、事業への投資に対し、生み出された社会的価値を貨幣換算して評価する手法です。これにより、「費用」ではなく「将来負担を減らすための投資」として事業効果を客観的に示すことができます。

$$\text{SROI} = \text{貨幣価値に換算した総便益} \div \text{投入費用}$$

Measurable Benefits (Outcomes)



財政効果 (Fiscal Impact / Cost Savings)

- 医療・介護給付費の抑制 (介護予防・健康増進による)
- 災害時の避難所運営コスト・二次被害の抑制
- 廃校・遊休施設の維持管理費の有効活用



共助効果 (Social Value)

- 高齢者の社会参加増加・孤立防止 (QOL向上)
- ボランティア活動時間の増加 (代替人件費換算)
- 地元商店の売上増加

このモデルは、自治体の財政負担を軽減すると同時に、住民の幸福度を高める持続可能なソリューションです。

2026年度ビジョン：「環境・防災・人の成長」で選ばれる、地域No.1企業へ

私たちは、省エネ・防災・レジリエンスに関する相談があれば最初に声がかかる「地域の環境・防災コンシェルジュ」としてのポジションを確立します。

- **SDGsの実践**：目標11「住み続けられるまちづくり」、目標13「気候変動対策」を事業の中核に据え、牽引します。
- **「愛され度」の可視化**：社員満足度、顧客満足度、地域貢献指標を可視化し、理念の実現を追求します。
- **原点回帰**：危機を乗り越えてきた歴史を胸に、「危機に強く、地域と共に歩む会社」として、これからも挑戦を続けます。



共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ。